

紅が濃く見栄え抜群の早生カンキツ 「みはや」の高品質果実生産技術

早生カンキツ「みはや」は、果皮が鮮やかな赤橙色で外観が美しく、糖度が高く酸味の少ない食味の良好な品種です。しかし園地条件や気象条件により品質が安定せず、その特性が十分に発揮できないのが問題となっています。そこで熊本県農業研究センター果樹研究所では、「みはや」の高品質果実を安定して生産できる栽培技術を開発しましたので紹介します。

☆ 技術の概要

1. 「みはや」は、8月上旬から樹冠下に透湿性シートを敷設するシートマルチ栽培をすることで、糖度は無マルチ栽培より高く、12月上旬には13以上となります。また、クエン酸濃度は、シートマルチの有無に関係なく、12月には1%以下となります(図1)。
2. シートマルチ栽培の果実は、露地栽培より肥大がやや緩慢になります(図2)。
3. 果面を保護する資材は、白色化繊布が果皮の赤みが強く、褪色発生度が低くなり被袋時間は他の資材の半分です。また、仕上げ摘果後から着色開始期までに果実を被覆すると褪色軽減効果が高くなります(写真1)。

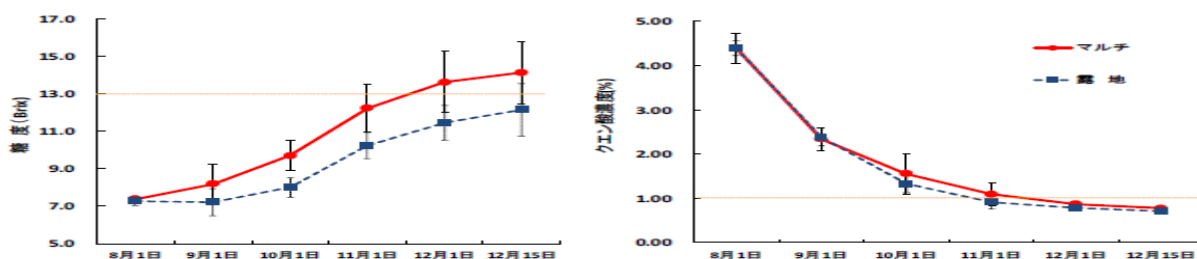


図1 シートマルチ栽培「みはや」果実の糖度(Brix)とクエン酸濃度の推移(2012年~2014年の3カ年平均値)

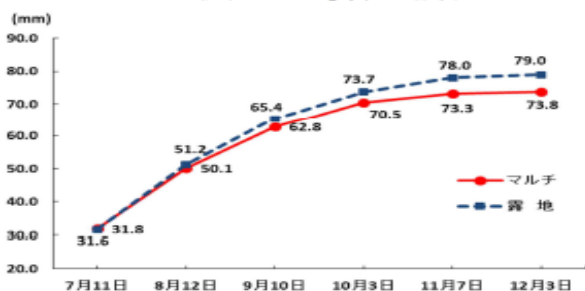


図2 シートマルチの有無による「みはや」果実の横径推移(2014年)



写真1 褪色した果実(左)と正常な果実(右)

☆ 活用面での留意点

1. シートマルチ栽培を行うとやや小玉果になるため、果実の初期肥大促進を目的に、6月下旬~7月上旬に(葉果比80枚/果を目安として)内なり・裾なり果実を中心に摘果して下さい。着果が多い場合は外成り直果・傷果も同時に摘果して下さい。
2. 仕上げ摘果時に白色化繊布を被覆する場合、果径が小さい果実は白色化繊布が外れやすいため、果梗部を針金等で留めるなど外れにくくする対策を行って下さい。
3. 樹冠内部の果実は、樹冠外周部の果実と比較して糖度が低くなります。
4. 詳細については、熊本県農業研究センター果樹研究所常緑果樹研究室(電話:0964-32-1723)までお問い合わせ下さい。

(農研機構果樹茶業部門 企画管理部 果樹連携調整役 和田 雅人)